

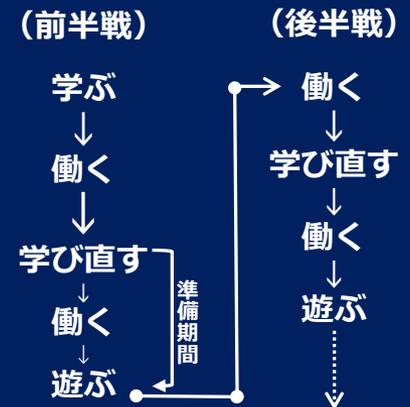
『人生100年』の時代 ~ うかつに『後半戦』を始めると“途中棄権”させてしまう

- これまでの常識や当たり前が通用しなくなる『パラダイムシフト』 (=Paradigm Shift) が起きている。—— 私達個人にとっては、「人生=生きる期間」の『Paradigm』 (=枠組み) が『Shift』 (=大変換) されている。
- 仕事人生/人生は圧倒的に長くなり、『後半』勝負となっている。そのため、準備もなく、うかつに『後半戦』を始めると、仕事人生も/人生そのものも“途中棄権”させることになる

- **1億総サラリーマン化** —— 「若いうちはしっかり学び、就職すると一つの会社で定年まで働き、その後は休む」という「一本道の人生ルール」に国民の大多数が乗って戦後日本を高度経済成長させた
- **1億総中流化** —— 復興の目途が付き、年金/健康保険制度を1961年に施行。当時、男性の平均寿命65歳。「55歳の定年まで働き、退職金でつなぎ、60歳から5年の年金生活」というのが昭和の平均的な人生モデルだった

4 増
割し

『人生100年』
(男性95歳/女性100歳)
令和新時代
~ 『第二創業期』 ~



4 増
割し

「人生70年」
(男性65歳/女性70歳)
戦後
~ 「第一創業期」 ~



「人生50年」
(男性45歳/女性50歳)
昔
~ 「戦前」 ~

働く

- 農業/漁業や個人商店など、「個人事業主」が圧倒的に多かった。—— 定年はなく、自らを終身雇用して、実質的に「生涯現役」だった
- 平均寿命が、男女共に初めて50歳を超えたのは、戦後すぐ、1947年(昭和22年)のこと。—— 人生はとても短かった